

災害伝承の在り方と

災害時の心構え

「36年伊那谷災害50年に向けて」

募集中!! (30名)

①現地討論会

10月7日(木)

9:00 ~ 12:00

- ・かわらんべ
- ・旧生田中学校
- ・出砂原六地藏

(集合：飯田合庁)



昭和36年6月の梅雨前線
豪雨による伊那谷災害
←(大鹿村大西山の大崩壊)



↑ 完成した砂防施設 (大鹿村大河原)



↑ 防災意識高揚のための事業 (昨年伊那市で開催

された自主防災組織の訓練模様)

募集中!! (200名)

②講演会・パネルディスカッション

10月7日(木)13:00~16:30

- ・「基調講演」信大名誉教授 北澤秋司氏
- ・「特別講演」伊豆市長 菊地 豊氏
- ・パネラー 元小谷村村長 郷津久男氏
- ほか住民3名の方々

(場所：飯田文化会館、人形劇場)

主催：長野県砂防ボランティア協会南信支部

共催：国交省天竜川上流河川事務所、県飯田建設事務所

県下伊那南部建設事務所、下伊那土木振興会

県建設業協会飯田支部、県測量設計業協会南信支部

長野県南部防災対策協議会、建災防飯田分会

1 現地討論会

- テーマ : 「災害の伝承」
- 日時 : 平成 22 年 10 月 7 日 (木) 9:00~12:00
- 視察個所 :

- ①かわらんべ---伊那谷の災害史を学ぶ
(説明者、学芸員 今村理則氏)
- ②旧生田中学校跡地---36 年伊那谷災害の際の惨状を聴く
(説明者、信州大学名誉教授 北澤秋司氏)
- ③出砂原の六地藏---
(説明者: 高森町公民館長 前島 氏)

(現地で写真配布)

(旧生田中学校の写真)

(出砂原の六地藏写真)



2 防災シンポジウム

- 日時 : 平成 22 年 10 月 7 日 (木) 13:00~16:30
- 場所 : 飯田文化会館「人形劇場」
- 内容

(1) 基調講演

「伊那谷の災害伝承の在り方」 信州大学名誉教授 北澤 秋司 氏

(2) 特別講演

「災害時の心構え (仮題)」 静岡県伊豆市長 菊地 豊 氏
~ 休 憩 ~

(3) パネルディスカッション

- ・ 討論テーマ : 「災害伝承のあり方と災害時の心構え」
- ・ コーディネーター 信州大学名誉教授 北澤 秋司 氏
- ・ パネラー 伊豆市長 菊地 豊 氏
- 同 (平成 7 年姫川災害時の首長) 元小谷村長 郷津 久男 氏
- 同 (昭和 36 年伊那谷災害経験者) 大鹿村住民 氏
- 同 (平成 12 年矢作川水系災害経験者) 根羽村住民 氏
- 同 (平成 18 年豪雨災害取材記者) 伊那ケーブルテレビジョン 平山 直子 氏
- ・ 聴衆との意見交換

パネル展示のご案内

- ・ 廊下に「昭和 36 年伊那谷災害」の被災写真 (天竜川、遠山川、小渋川、三峰川など各支流) が展示されています。ご覧ください。

講師、パネラーの紹介

○「基調講演」(コーディネーター)



信州大学名誉教授 北澤秋司 氏

- ・昭和8年伊那市生まれ。現住所伊那市西春近在住。
- ・昭和63年信州大学院農学研究科教授となり、平成11年同退官。
- ・日本森林学会会員、(社)砂防学会会員、(社)日本地すべり学会会員、同中部支部顧問。長野県防災会議専門委員、入谷・此の田地すべり基本計画検討委員会委員、上伊那陸上競技協会名誉会長 ほか。
- ・専門は山崩れ、土石流、崖崩れ、地すべり等の発生機構に関する研究 など。

○「特別講演」(パネラー)



静岡県伊豆市長 菊地 豊 氏

- ・昭和33年生まれ。昭和56年防衛大学校(国際関係論)卒業。
- ・昭和56年自衛隊入隊後、防衛大学校教官、国連モザンビーク平和維持活動、ドイツ連邦軍指揮大学留学、防衛研究所、在ドイツ日本国大使館防衛駐在官、内閣官房内閣衛星情報センター主任分析官などを歴任し平成19年1等陸佐で陸上自衛隊を退職。
- ・平成20年4月伊豆市長に就任。国際経験豊かな市長として各方面で活躍。

○パネラー



元小谷村村長 郷津 久男 氏

- ・昭和6年北安曇郡小谷村生まれ。現住所小谷村千国在住。
- ・県立大町南高等学校卒業後、昭和25年長野県土木技術職員として姫川砂防事務所に勤務。昭和41年同退職後建設会社の代表を務める。
- ・平成3年小谷村村長に就任し3期12年間地方自治の振興に貢献。この間平成7年梅雨前線豪雨災害(姫川災害)等に直面し、災害対策や再建に奔走。
- ・平成15年全国町村会から自治功労章、国土交通省から砂防事業功労賞受賞。

○パネラー

大鹿村住民 _____ 氏

○パネラー

根羽村住民 _____ 氏

○パネラー



アナウンサー 平山 直子 氏

- ・広島県出身。信州大学農学部森林科学科卒業。
- ・2002年伊那ケーブルテレビジョン入社後、カメラを持つでの取材に、企画番組に、アナウンスなどを担当しています。
- ・2007年夏「18年豪雨災害」が勃発し、伊那ケーブルテレビでは24時間以上にわたり災害の状況を生中継し、この際アナウンスと取材を現地で担当しました。

